

鉄筋継手部検査技術者技量資格検定委員会

1. はじめに

平成19年4月に「鉄筋ガス圧接部超音波探傷検査技術者」制度が「鉄筋継手部検査技術者」制度に改正され、それまでのガス圧接継手部の検査資格からガス圧接継手部以外に溶接継手部、機械式継手部も含めた資格となった。その後のさらなる社会のニーズ、業界やユーザーの意見を取り入れ、制度の充実をはかるべく、この度の改正に至った。

2. 鉄筋継手部検査技術者技量資格検定規定改正の概要

次の(1)~(5)が主な改正内容で、平成21年6月以降に実施する検定試験より施行する。また、次頁の表1に平成21年5月までと6月以降の検定試験の概要を示す。詳細については、今後、資格者もしくは資格者の所属会社へ通知し、当協会ホームページにも掲載する。

(1) 種別の新設

ガス圧接継手部、溶接継手部及び機械式継手部について単独の資格を設け、溶接継手部は1W種、機械式継手部は1M種とする。また、これまでの1種(ガス圧接継手部)は1G種と名称変更する。

(2) 更新試験の変更

更新試験は実技試験のみとし、学科試験の代わりに、知識や技術の幅を広げるために試験当日に実施する「更新時講習」(座学講習)の受講を必須とする。スケジュールは午前中に「更新時講習」を実施し、午後に実技試験を行う予定である。

(3) 学科試験問題数及び試験時間の変更(新規試験)

学科試験の問題数は1G種、1W種及び1M種は10問、2種は15問、3種は20問とする。試験時間は1G種、1W種及び1M種は20分、2種は30分、3種は40分とする。

(4) 超音波探傷・測定実技試験体本数及び試験時間の変更

超音波探傷・測定実技試験の試験体本数は、新規・更新ともに対象継手部毎に5本ずつとする。試験時間

は、1G種、1W種及び1M種は30分、2種は40分、3種は60分とする。

(5) 受験資格の変更

平成19年4月に鉄筋継手部検査技術者制度が施行され、この制度の移行期間として平成21年5月31日までは、新しい技術を周知させる目的で「鉄筋継手部検査技術講習会」の受講を義務付けていた。この制度の移行期間が終了するため、今後は、「鉄筋継手部検査技術講習会」の受講は任意とする。

(6) 使用できる超音波探傷器の拡大

使用できる超音波探傷器を拡大した。1G種、1W種、2種は専用探傷器又は汎用探傷器が使用でき、1M種、3種は汎用探傷器が使用できる。

(7) JRJS(旧NAKS)0003の改訂に伴う使用できる超音波探傷器、探触子の拡大

機械式継手の鉄筋挿入長さを測定する際に使用できる超音波探傷器はデジタル式汎用探傷器に限定していたが、日本鉄筋継手協会規格JRJS(旧NAKS)0003-2008(機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準)の改訂に伴い、アナログ式及びデジタル式汎用探傷器を使用できる。また、探触子は周波数2MHz、5×5mmのSH用探触子に限定していたが、周波数2MHz又は5MHz、寸法は5×5mm又は10×10mmを使用できる。

3. 溶接継手の超音波探傷検査方法の変更について

「鉄筋の半自動溶接継手工事標準仕様書(案)」では、溶接継手の超音波探傷検査方法は、ガス圧接継手と同様に、JIS Z 3062(鉄筋コンクリート用異形棒鋼ガス圧接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)に準じて行うことが規定されている。しかし、溶接継手部特有の外周欠陥を検出し難い等、問題点も多い。当協会では、溶接継手の超音波探傷検査に関する研究を長年にわたり行ってきた。現在、JRJS 0005-2008(鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接継手の超音波探傷試験

方法及び判定基準)を作成しており、本年8月頃に発行予定の(仮称)「鉄筋継手工事標準仕様書 溶接継手編」に盛り込まれる予定である。JRJS 0005-2008は、ガス圧接継手部の超音波探傷試験方法である直角K走査法と新たに斜めK走査法を取り入れ、それらを併用する方法である。JRJS 0005-2008に基づいた溶接継手部の超音波探傷検査を、本年12月より鉄筋継手検査技術者技量資格検定試験に適用する予定である。これにより、溶接継手部の検査に関する1W種、2種及び3種では、この新しい超音波探傷試験方法を十分に習得することが必要となる。JRJS 0005-2008の詳細については、本誌平成21年4月号にて掲載する予定である。

4. 鉄筋継手部検査技術講習会について

鉄筋継手部検査技術講習会は、検定試験を受験する際の受験資格となっているが、本年6月以降は本技術講習会の受講は任意となる。ただし、新しい超音波探傷・測定検査方法や(仮称)「鉄筋継手工事標準仕様書」の制定により、新たな知識や技術の習得が必要となるので、講習会を受講されることを強く勧める。本年6月以降のスケジュールは未定だが、実技講習を含めた技術講習会を行っていく予定である。スケジュールや講習内容の詳細については、決定次第、当協会ホームページ等にて公表する。

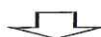
表1. 鉄筋継手部検査技術者技量資格検定試験の概要

①平成21年5月まで

資格種別	検査できる鉄筋継手部	受験資格※1	有効期限	学科試験		超音波探傷検査実技試験				外観検査実技試験		
				学科試験問題数	試験時間	探傷器	試験体本数		試験時間	試験体本数	試験時間	
							新規	更新				
1種	圧接	18歳以上	3年	20問	45分	専用探傷器	圧接10本	40分	圧接5本	30分	圧接5本	5分
2種	圧接溶接			20問	45分	専用探傷器	圧接10本 溶接5本	50分	圧接5本 溶接5本	40分	圧接5本 溶接5本	10分
3種	圧接溶接機械式	18歳以上 JSNDI UT 資格保有者		20問	45分	デジタル型 汎用探傷器	圧接10本 溶接5本 機械式3本	60分	圧接5本 溶接5本 機械式3本	50分	圧接5本 溶接5本 機械式5本	15分

※1. 本協会が実施する鉄筋継手部検査技術講習会を受講しなければならない。

※2. 鉄筋ガス圧接部超音波探傷検査技術者は、更新期間にA種の場合、2種もしくは3種、S種の場合、1種もしくは2種の更新試験を受験することができる。



②平成21年6月以降

資格種別	検査できる鉄筋継手部	受験資格※1※2	有効期限	学科試験※3		超音波探傷・測定実技試験			外観検査実技試験	
				学科試験問題数	試験時間	探傷器	試験体本数	試験時間	試験体本数	試験時間
1G種	圧接	18歳以上	3年	10問	20分	汎用探傷器 又は専用探傷器	圧接5本	30分	圧接5本	5分
1W種	溶接			10問	20分	汎用探傷器 又は専用探傷器	溶接5本	30分	溶接5本	5分
1M種	機械式			10問	20分	汎用探傷器	機械式5本	30分	機械式5本	5分
2種	圧接溶接	15問		30分	汎用探傷器 又は専用探傷器	圧接5本 溶接5本	40分	圧接5本 溶接5本	10分	
3種	圧接溶接機械式	18歳以上 JSNDI UT 資格保有者	20問	40分	汎用探傷器	圧接5本 溶接5本 機械式5本	60分	圧接5本 溶接5本 機械式5本	15分	

※1. 鉄筋ガス圧接部超音波探傷検査技術者は、更新期間にA種の場合、2種もしくは3種、S種の場合、1種もしくは2種の更新試験を受験することができる。

※2. 更新試験は、保有する資格種別と同種別、又は3種登録者は1G種、1W種、1M種もしくは2種、2種登録者は1G種もしくは1W種を受験することができる。

※3. 学科試験は新規のみで、更新の場合、当日実施する更新時講習を受講しなければならない。